

廃食用油リサイクルとトマト栽培

田園資源 + エネルギー・環境

・(株)四ツ郷農業生産組合

<取り組みの概要>

- ◆毎年11月～4月に、原信ナルスで総菜などの商品づくりに使われた食用油を買い上げ、ビニールハウス内を暖めるためのボイラーの燃料に活用しています。
- ◆水分を与える量を少なく調整すると、小さくて甘さが凝縮されたトマトが出来上がります。生産された高糖度のフルティカトマトは、原信ナルスに出荷しています。

<取り組みの効果>

- ◆冬季にボイラー活用することで年間通してハウス内の環境維持が可能となり、安定的なトマト栽培ができます。そのボイラー燃料に廃棄されるはずの食用油を活用することで、燃料費の削減とCO2排出量の削減に繋がっています。

< 株式会社 四ツ郷農業生産組合 >

- ◆概要：新潟市西区の砂丘地に建つビニールハウスで、糖度の高いフルティカトマトを栽培しています。2011年11月には「食の安全」「環境保全」にも配慮しながら農場経営を行っている農場に与えられる『JGAP認証』を取得し、持続可能な農業を目指し、農場経営を行っています。
- ◆電話番号：025-264-3688

<取り組みに至った経緯>

- ◆当社は「人と環境にやさしい農業」を企業理念としています。廃食用油を燃料に活用することで、化石燃料の使用を削減し環境負荷が軽減できると考え、廃食用油をボイラーの燃料に活用することを前提に事業設計し、トマト栽培を開始しました。

<今後の展望>

- ◆引き続き冬場は廃食用油をボイラー燃料に活用しながら、糖度や食味を保ちつつ、子どもから高齢者まで食べやすいトマトの栽培を続けていきたいと思っています。

<取り組む際に生じた課題と対応方法>

- ◆廃食用油のため、揚げ物の残りかすや不純物が混ざってしまっており、ボイラーが止まってしまうことがあります。こまめにボイラー掃除し、対応しています。
- ◆年間で一定の品質を保つことに苦労しています。ハウス規模が大きいこともあり、トマトの生育や糖度に影響する水分管理や温度管理にどうしてもムラが出てきてしまいます。日々トマトの生育確認をしながら品質保持に努めています。

<活用した支援施策>

- ◆平成23年（2011年）新潟県農林水産業総合振興事業費補助金
※ビニールハウスの建設、ボイラー機器の設置費用等に充当

